

取扱説明書

自走式芝刈機

“ローンモア”

GR538



0270-70000



- 取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
- 本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
- 取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。
- 安全性維持のため、本紙定期点検表に従い年次点検をお受けください。（有料）
- 本製品の保守には必ずメーカー純正品をご使用ください。

株式会社 オーレック

《販売店様へ》

本製品納品の際には納品前点検を行い、お客様から商品受領書をお受け取り後、①メーカー控えを専用封筒にてご返送願います。

目 次

項 目	頁
《はじめに》	1
《重要なお知らせ》	1
《本製品の規制について》	1
《保証・契約書・免責事項》	1
《定義とシンボルマークについて》	2
《安全に作業をするために》	2
《開梱後の組立について》	6
《各部の名称》	7
《方向について…》	8
《各部のはたらき》	8
《上手な運転のしかた》	9
運転前の始業点検 ----- 9	走行・旋回・変速・停止のしかた ----- 12
エンジン始動・停止のしかた ----- 9	トラックへの積み降ろしのしかた ----- 14
《上手な作業のしかた》	15
草刈作業のしかた ----- 15	
《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》	18
ミッションオイルの廃油と給油 ----- 18	各部への注油のしかた ----- 19
エンジンオイルの点検・補給・交換 ----- 19	
《各部の点検・整備・調整のしかた》	20
エアクリーナの清掃のしかた ----- 20	燃料フィルタの清掃のしかた ----- 21
燃料パイプの点検のしかた ----- 21	点火プラグの点検のしかた ----- 21
《そのほかの点検》	22
各部ワイヤ調整のしかた ----- 22	
《ナイフの点検・交換のしかた》	24
ナイフの点検・交換 ----- 24	ナイフの取付け方 ----- 25
《長期保管のしかた》	26
《機械を他人に貸すときは…》	27
《仕 様》	27
《工具袋・同梱品明細》	28
《消耗品明細》	28
《定期自主点検表》	29
《自己診断表》	30
《エンジンの不調とその処理方法》	31

《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。

ご使用の前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。



警告

又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用下さい。

《重要なお知らせ》

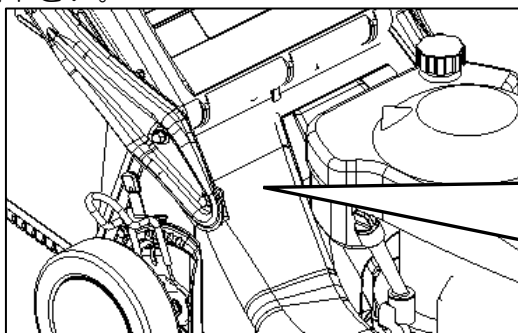
- 性能・耐久性向上及びその他諸事情による部品等の変更で、お手元の製品の仕様と本書の内容が一部一致しない場合があります。
- 本書の内容の一部又は全部を無断で複写複製(コピー)する事は、法律で定められた場合を除き、著作権の侵害となりますので予めご注意ください。
- 本書では説明部位が具体的に理解できるよう、写真、イラストを用いています。説明部位以外は省略されて表示されている場合があります。
- 本書は日本語を母国語としない方のご使用は対象としていません。

《本製品の規制について》

本製品は農業用機械として開発しておりますので、これ以外の用途(レンタル等、作業者が特定されないような使われ方)では使用しないで下さい。この場合には保証の対象外となる場合があります。又、地を這うように伸びるツタ、ツル等の草については刈取れない場合もあります。

《保証・契約書・免責事項》

- 本書とは別に本製品には品質保証書が添付されています。必ず品質保証書裏面の保証規約を良く読んで理解しておいて下さい。
- 本製品の保証期間は、新品購入から **1ケ年**、又は **50使用時間**(請負業務用については **6ケ月間**、もしくは **50使用時間**)の内どちらか早い時点で到達した方となっています。
- 全ての注意事項を予測する事は不可能です。製品を使用する際には作業側も安全への配慮が必要です。
- 本書を読んでも判らない場合には勝手な操作はせず、必ず製品お買い上げの販売店(以降販売店)までご相談下さい。
- 製品を安全に効率よくご使用し続けて頂くためには定期的な点検・整備が不可欠です。「定期自主点検表」及び「年次点検表」に記載のある 定期的な点検・整備を必ず最低毎年1回は販売店まで依頼しましょう(有料)。これらの点検・整備を行わなかった事及び仕様を越えた使用・改造等本書に従わなかった事に起因する故障・事故に関しては保証の対象外となります。
- ご不審な点及びサービス等に関するご質問は、販売店までご相談下さい。その際、『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名(エンジン本体に刻印又は貼付されています。)]を併せてご連絡下さい。






種類 Description	芝刈機(歩行型)
型式名 Model	GR538
製造番号 Serial No.	0000000000
発売元	(株)オーレック
株式会社 オーレック OREC CO., LTD.	MADE IN JAPAN FABRIQUE AU JAPON

◎この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。

《定義とシンボルマークについて》

本書では、危険度の高さ(又は事故の大きさ)に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。

シンボルマーク	定 義
 危険	回避しないと、死亡または重傷を招く確率の高い危険な状態を示します。
 警告	回避しないと、死亡または重傷を招く可能性がある潜在的な危険状態を示します。
 注意	回避しないと、軽傷または中程度の傷害を招く可能性がある潜在的な危険状態を示します。
注意	回避しないと物的損害を引き起こす可能性がある潜在的な危険状態を示します。
参 考 ;	操作、保守において知っておくと便利な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項を示します。

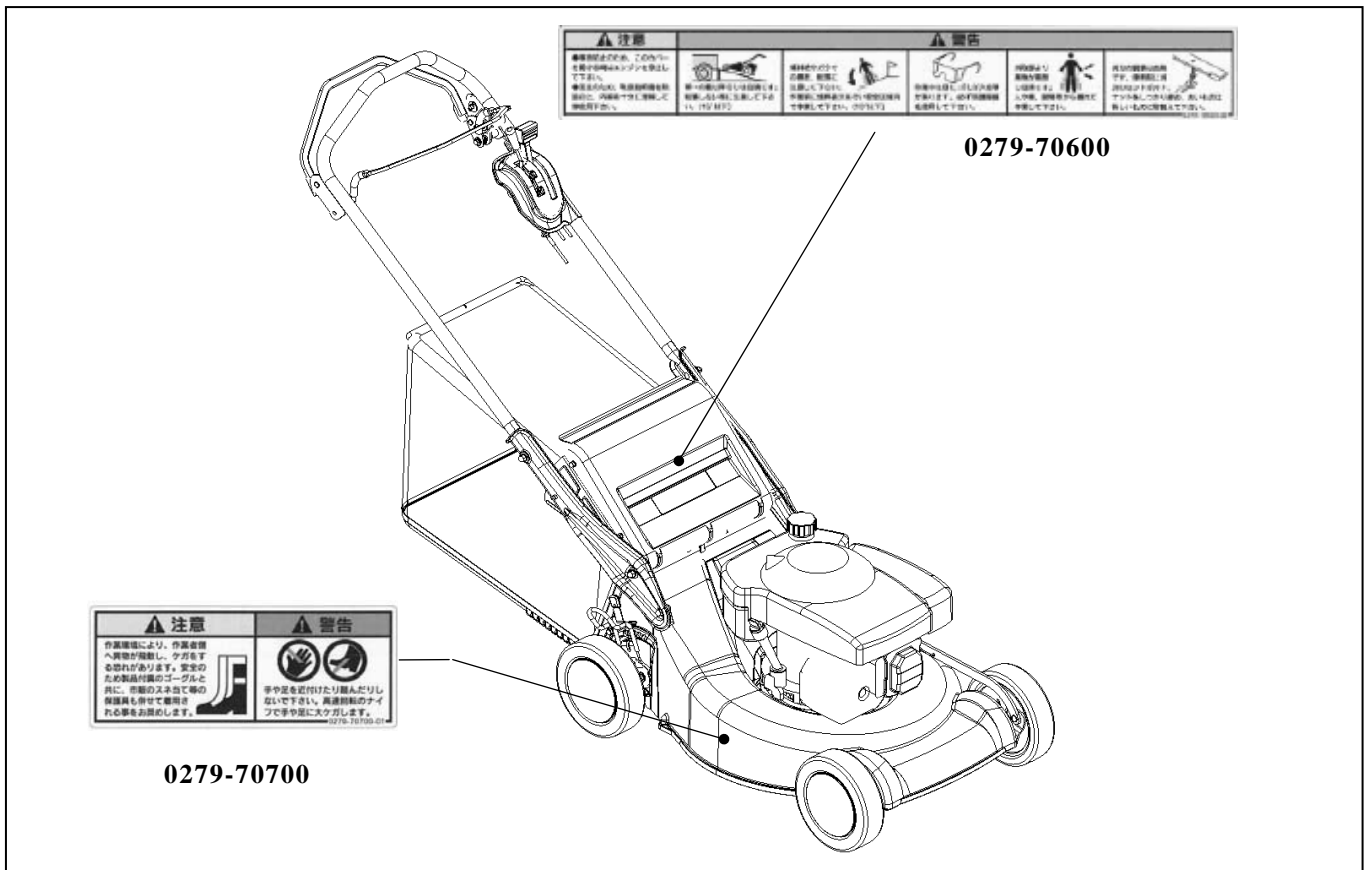
《安全に作業をするために》 …重要危険項目…

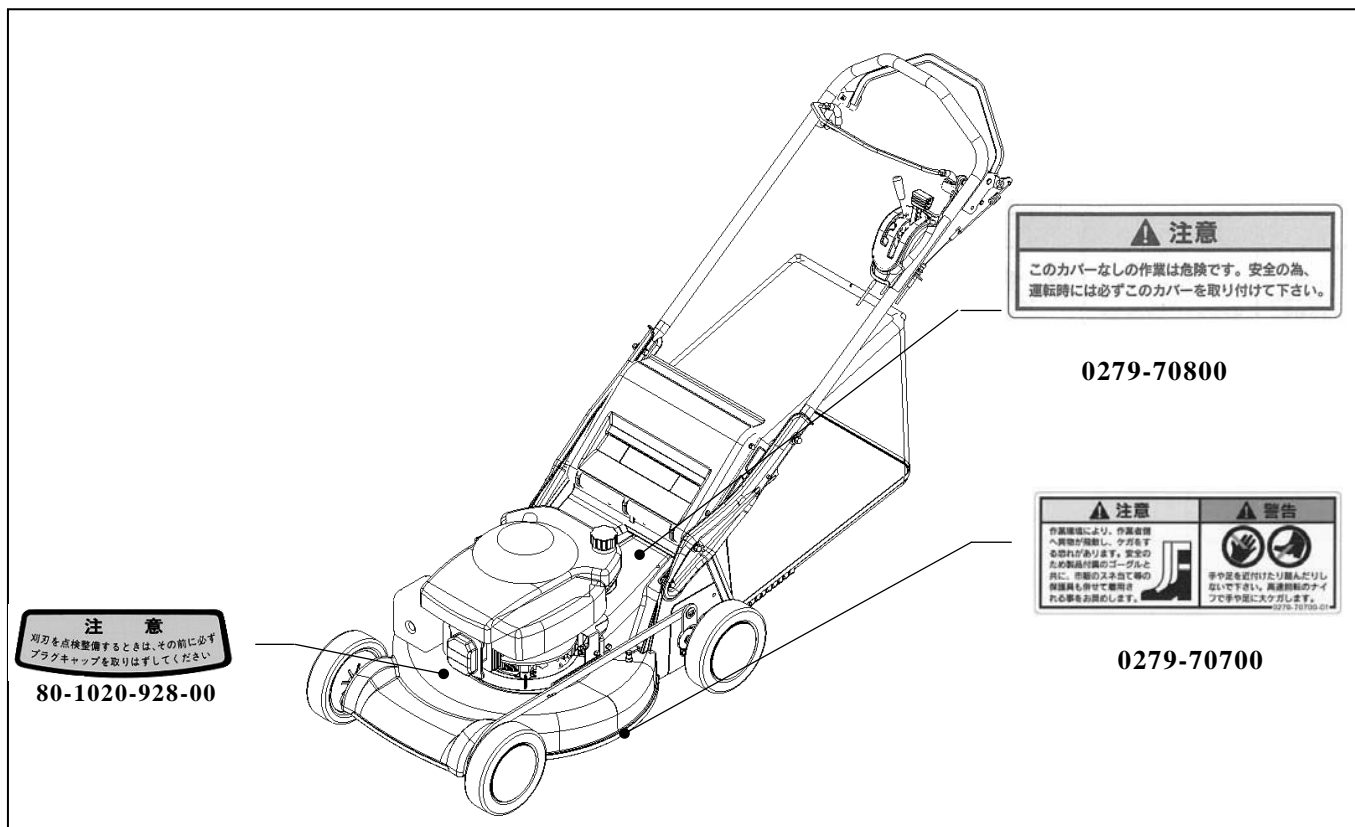
(1) 警告表示マーク

- 以下の警告表示マークは本項目内における重要危険事項の中から特に重要なものとして本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読みいただき、内容を十分理解して必ず守って下さい。
- …警告表示マークが見えにくくなった場合には、必ず同じものを必ず販売店で購入し、同じ場所へ貼り付けておいて下さい。 〈28頁…消耗品一覧参照〉

危険

本製品は混合ガソリンを燃料としており、作業中はもちろん本製品のそばでのくわえたばこや焚き火等は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。





(2) 作業前の注意

- 本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。
- 所有者以外の人には使用しないで下さい。
- 過労、病気、薬物の影響、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業を控えて下さい。又、酒気を帯びた人、妊婦、若年者、未熟練者も作業をしないで下さい。

▲警告 機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた安全靴や帽子又は、ヘルメット、防護眼鏡、スネ当て等を必ず使用して下さい。

▲注意 作業を開始するときには、周囲に人や動物、車両等が無いことを確認し、作業中は半径10m以内にこれらのものを近付けないで下さい。

▲警告 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は非常に危険です。安全のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。

- 必ず、スパイク車輪の取付けボルトが確実に締まっているか点検し、緩んでいるときはしっかり締めて下さい。

▲警告 ナイフの脱落は危険です。ナイフのセットボルト・ナットをしっかりと締めて下さい。又、古いものは新しいものに取換えて下さい。

▲警告 ナイフ交換のための開閉カバーがあるものは、開いたままの使用は危険です。必ず閉めた状態で使用して下さい。

▲警告 小石やその他の異物は事前に取り除き、障害物は事前目印となる物をつけた後で作業を始めて下さい。又このような圃場では安全のために通常よりも高刈りで作業を行って下さい。ナイフが欠けたり石等の異物が飛散し危険です。

▲警告 排気ガスによる中毒防止のため、屋内ではエンジンを始動させないで下さい。

- 転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。

- ・ ナイフクラッチが「切」の時、ナイフが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合には速やかにエンジンを停止しベルト押え、ワイヤ調整をして下さい。

▲警告 10°を超える傾斜地での作業や、トラック搭載用ブリッジの勾配が15°を超えると危険です。安全作業のため、これらの勾配角度未満でご使用下さい。

▲警告 斜面で不要に走行クラッチを切ったり、変速レバーを中立にすると暴走し危険です。斜面では、これらの操作をしないで下さい。

- ・ 平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。十分に安全な平坦地を走行して下さい。

▲警告 斜面で本機の山側にいると足を滑らせた場合、本機の下側に体が入ることがあり危険です。特に湿った斜面は滑りやすく危険です。斜面では本機の山側にはいない様にして下さい。

▲警告 暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できない環境では使用しないで下さい。

注意 安全作業の妨げとなるような本機の改造(夜間作業用のライトの装着、ナイフカバーの切断等)は絶対にしないで下さい。これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては一切の責任を負いかねます。

(3) 燃料給油時の注意

注意 給油は必ず燃料タンクの油面上限マーク以下にし、万一多く入れ過ぎたときは、マーク以下になるまで抜き取り、又周辺にこぼれた燃料は必ずふき取って下さい。

▲危険 給油中及び作業中は火気厳禁です。又、燃料をこぼさないように注意し、もし燃料が周辺にこぼれた場合にはきれいにふき取って下さい。燃料への引火爆発の危険があります。

▲危険 火傷や引火の危険があります。給油はマフラの温度が十分下がってから行って下さい。

(4) 始動時の注意

- ・ エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。
- ・ 走行クラッチ、ナイフクラッチを「切」位置にしてから始動して下さい。
- ・ 回りに人や動物や車両等がない事を確認し、また周囲の安全を確認してから始動して下さい。

(5) 積み降ろし時の注意

- ・ 平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引いて、確実に駐車をして下さい。
- ・ 丈夫なブリッジを確実に掛け、ゆるい勾配でエンジン回転を下げ、積み降ろし共に前進「1速」位置でゆっくり行い、その他の位置には絶対入れないで下さい。

(6) 作業中の注意

- ・ 安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。

▲注意 健康のため、1時間以上継続して製品を使用することは避けて下さい。必ず1時間毎に10分程度の休息を取るようして下さい。

▲注意 排気マフラは高温となります。火傷をしないよう手等を近付けないで下さい。

- ・ 刈取りクラッチは、人(子供含む)や動物がいない事を確認し、安全に十分注意した後に操作して下さい。(該当製品)

- ・バックする時は、子供や動物がいない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖からの転落等がない様足場に注意して下さい。
- ・スリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジンを停止して点検・調整して下さい。

▲注意 刈取部全周にわたり、石等の異物が飛散し大変危険です。人や車、建物などから離れて十分ご注意の上作業して下さい。安全の為、保護眼鏡を必ず装着し、必要に応じてスネ当て等の保護具も併用する事をお奨めします。

参考；

- ・凸凹の多い圃場では刈高さを高くして使用して下さい。

▲警告 回転部分は危険です。とくにナイフカバー内は危険ですので、運転中は身体を近付けないで下さい。

注意 冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因です。外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、エアクリーナ内部の清掃も同時に行ってください。

▲警告 石等、危険物の多い場所では事前に石等の異物は取り除き、障害物の位置を確認した後に目印等をつけ、安全のため通常よりも高刈りで作業をして下さい。ナイフが欠けたり、石が手前に飛んできたりして危険です。

参考；

- ・作業中、石・木株等に当たったときは、直ちにエンジンを停止し、ナイフの回転が停止した事を確認後、欠けや曲がりの有無を調べ必要であれば修正・交換をして下さい。

(7) 作業終了後の注意

- ・本機より離れる時は、必ずエンジンを止めて下さい。
- ・安全のため、燃料コックは必ず閉めて下さい。

(8) 点検・整備時の注意

- ・機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止し、点火プラグキャップを点火プラグから外して下さい。

注意 品質及び性能維持のためには定期点検が不可欠です。始業・月次点検は所有者ご自身で、年次点検は販売店(有料)へご依頼下さい。定期点検を怠ったことによる事故・故障については責任を負いかねますのでご注意下さい。

▲警告 ミッションやナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。作業中に異常を感じた箇所はそのままにせず、必ず作業を中断して点検、また作業終了後に再度点検し、必要な修理をしておいて下さい。

- ・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取付けて下さい。
- ・ナイフセットボルトは安全の為、ナイフ交換の際には一緒に新品と交換して下さい。

注意 燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。3年毎、又傷んだ時には締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。

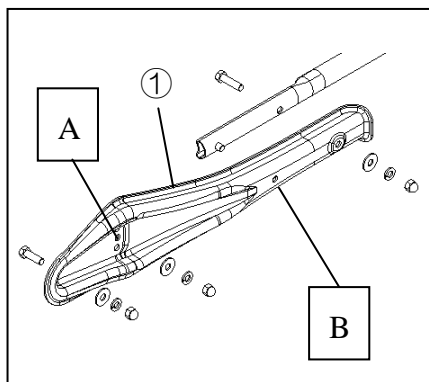
▲注意 点検・整備又はカバーをかける場合には火傷や火災を防ぐため、エンジンの停止後マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認した上(エンジン停止後10分以上)で行ってください。

- ・走行・ナイフ・ブレーキ・スロットル・変則等の点検、調整は十分に行ってください。

- ・ナイフブレーキ、走行（駐車）ブレーキのあるものについては安全の為使用時間が100時間に到達しない時点でブレーキシュー又はその全体を交換して下さい。

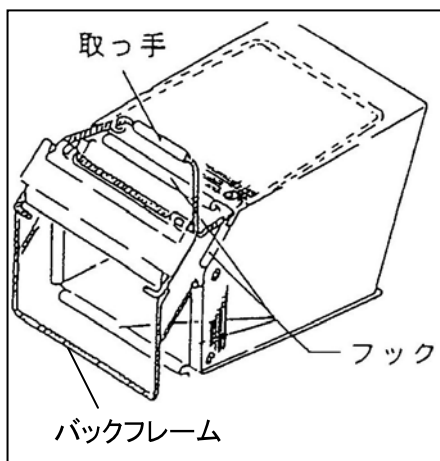
注意 本機を傾ける時はハンドル側より見て右側を下にするか、前側を上を上げ、エンジンオイル・キャブレター側を必ず上にして下さい。逆に傾けると、キャブレターの中にオイルが流入し、始動しなくなります。

《開梱後の組立について》



ハンドルの組立て

- (1) ①のハンドル取付板を本体に取り付けます。
- (2) ハンドル取付板にハンドルを取付けます。
 - ・ハンドル先端のピンをBに差込み、ボルトを内側より通し、座金・バネ座金・袋ナットで固定します。
 - ・Aの穴の位置で、ハンドルの高さを調整して下さい。



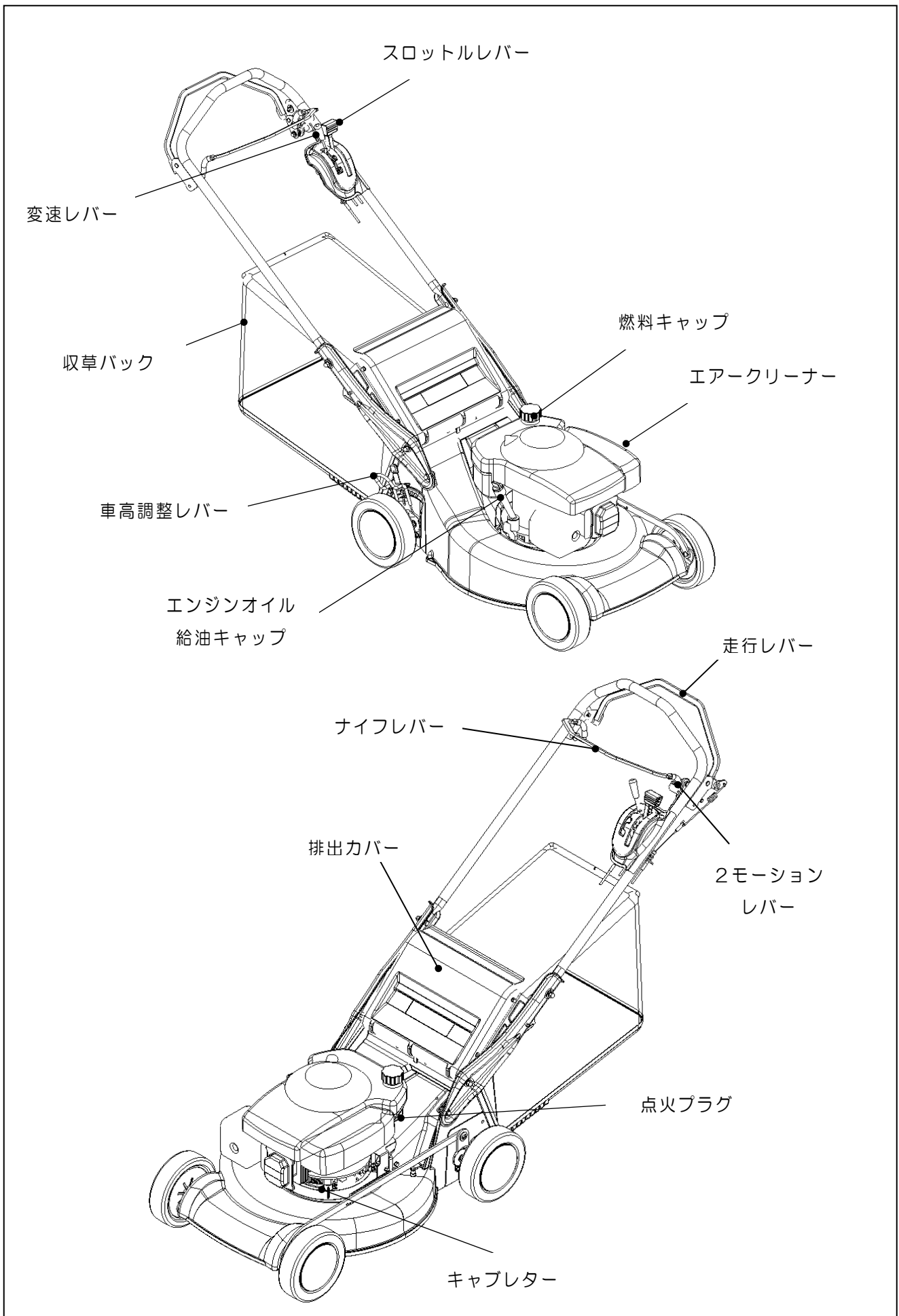
収草バックの組立て

- (1) 収草バックの中にバックフレームを入れて下さい
- (2) 収草バックのフックをバックフレームに掛けて下さい。

注意

フックを掛けるときには、フレームの取っ手をバックの上に出して下さい。

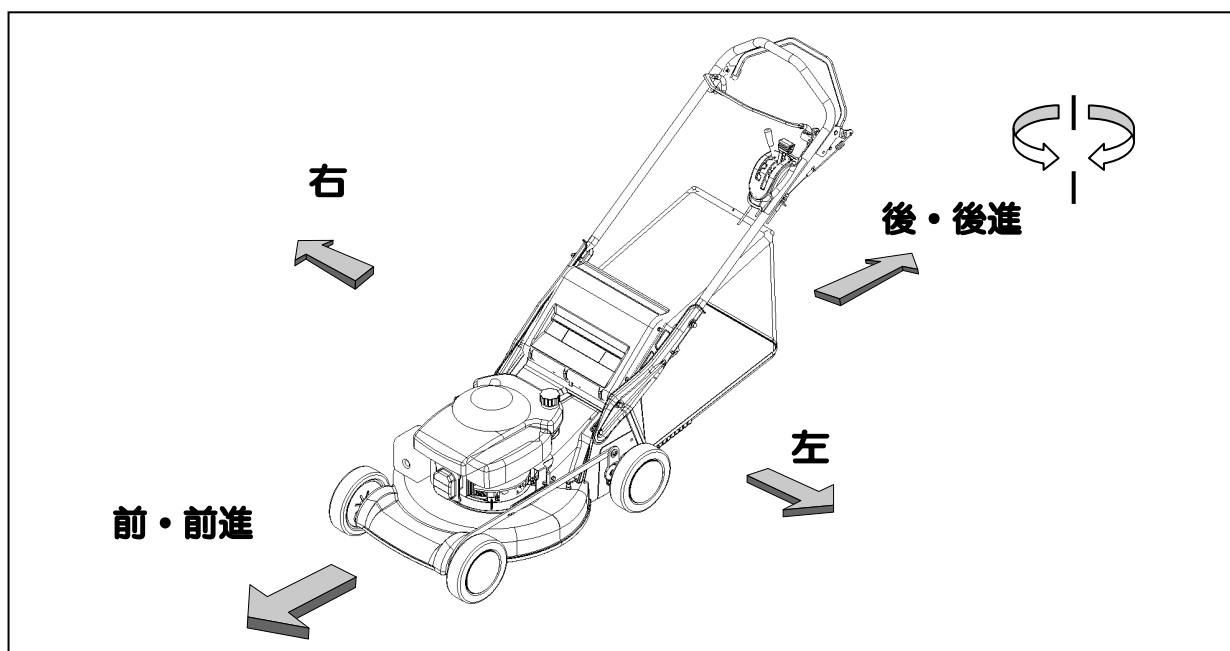
《各部の名称》



《方向について…》

本機の前後左右は、下図のように作業者から見た方向で表します。

本文中の、「前進」・「後進」についても、作業者からみた方向で表します。



《各部のはたらき》

① 走行レバー

エンジンからミッションへの動力を断続させます。レバーを前へ倒しハンドルと一緒に握ると「Ⓐ」位置の状態、離すと「Ⓑ」位置の状態になるデッドマン式クラッチレバーを採用しています。

② ナイフレバー

エンジンからナイフへの動力を断続させます。2モーショレバーを前に倒し、ナイフレバーを手元に倒してハンドルと一緒に握ると「Ⓐ」の状態、離すと「Ⓑ」位置の状態になる2モーショ式デッドマンクラッチを採用しています。

* 2モーショレバーを操作せずにナイフレバーを握ってもナイフは作動しません。

③ 変速レバー

走行速度の選択時に操作します。変速は前進のみで1速・2速・3速の3段階です。

変速操作は走行レバーから

手を離し、本機を停止させた後操作して下さい。

「1速」位置ではゆっくりと、

「2速」位置ではスピーディーな作業

「3速」位置では速やかな移動ができます。

注意

変速レバーの操作は走行レバーを「Ⓑ」位置にして行って下さい。

走行レバーを握ったまま変速レバーの操作を行なうと、ミッション内部のギヤが破損する恐れがあります。

④ 刈高調整レバー

刈高さの調整を行います。調整は5段あります。

⑥ スロットルレバー

エンジンの始動、停止、回転数の増減を調整します。

《上手な運転のしかた》

運転前の始業点検

安全で快適な作業を行うために「定期自主点検表」〈29 頁参照〉に従って始業点検をおこない、異常箇所は直に整備をしてから作業を始めて下さい。

エンジンの始動・停止のしかた

⚠ 危険

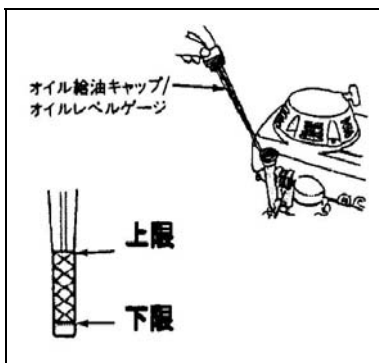
- ①締め切った室内でエンジンを始動及び暖機運転をしないで下さい。
… 有害な排気ガスで空気が汚染され、ガス中毒をおこす恐れがあります。
- ②ガソリンエンジンを搭載していますので、くわえタバコや裸火照明はガソリンに引火したりして危険です。絶対に行わないで下さい。
- ③エンジンとマフラが冷えた後、入れ過ぎて燃料をこぼさないように注意し、もしこぼれた場合にはきれいに拭き取って下さい。
- ④給油は給油上限以下にして下さい。本機が傾くと燃料給油栓から燃料がこぼれ危険です。

⚠ 注意

- ・ エンジンの始動時には、レバーの位置と周囲の安全を確認して下さい。
- ・ エンジンの設定回転をむやみに調整しないで下さい。
- ・ エンジン運転中や、停止後すぐ(約 10 分間内)の熱い間は燃料の給油栓を外したり、燃料の補給をしないで下さい。
- ・ 燃料補給後は給油キャップを確実に締め付けて下さい。
- ・ エンジンオイルの点検はエンジン停止後、エンジンが冷えるのを待って火傷に十分注意して行って下さい。

注意

- ・ 燃料が少なくなったら早めに燃料を補給して下さい。次の始動が容易になります。
 - ・ 変質した燃料は使用しないで下さい。始動不良や出力不足だけではなく、焼付等エンジン破損の原因となります。
 - ・ 本機には新品時エンジンオイルが入っていません。エンジン始動前には必ずエンジンオイルを注油して下さい〈19 頁エンジンオイルの交換・点検・注油参照〉。



①エンジンオイルの量を確認して下さい。

◎給油栓がオイルゲージを兼用しています。

オイルゲージの上と下の目盛線の間オイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい。

(エンジンオイル(#30)量は約0.7リットルです。)

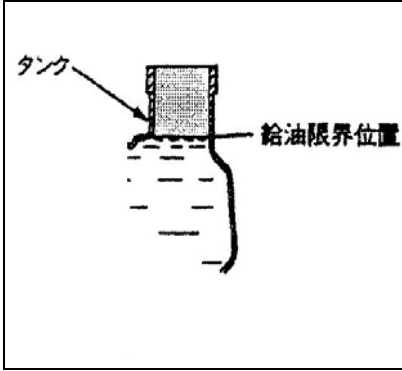
参考；エンジンは水平にして給油栓はねじ込まずに差し込んで点検して下さい。

- ・ 使用するエンジンオイルはSD級以上の良質の新しいオイルを使用し、気温によって次のように使い分けて下さい。

夏期(10°C以上)・・・SAE30, SAE10W-30, 又はSAE40

冬期(10°C以下)・・・SAE5W20, 又はSAE10W-30

■ 燃料の点検と補給



② 燃料を確認して下さい。

燃料はレギュラー（無鉛）ガソリンを入れて下さい。

〈燃料タンク容量は 27 頁…仕様参照〉

• 燃料が少なくなってきたら早めに燃料を補給して下さい。

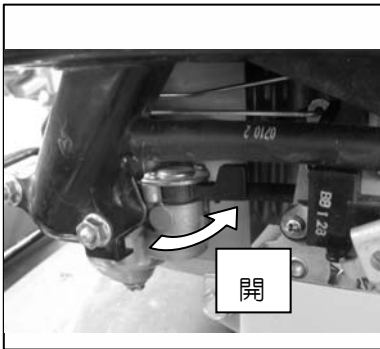
• 燃料補給後は給油キャップを確実に締め付けて下さい。

又燃料の補給は、給油口内フィルタの赤い棒（規定油面上限）以下で使用して下さい。本機を傾けた際に給油口から燃料が漏れ出し危険です。

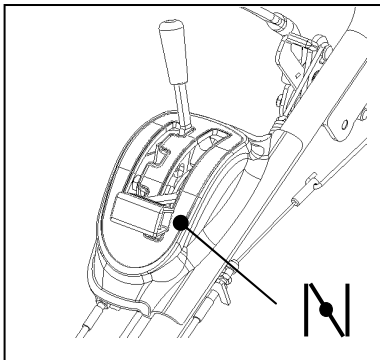
注意

● 燃料は常に新しいものを使用して下さい。古い燃料又は長期間（3 ヶ月以上）ポリタンクに保管した燃料は、エンジンの不調や破損の原因となることがあります。

■ エンジン始動のしかた

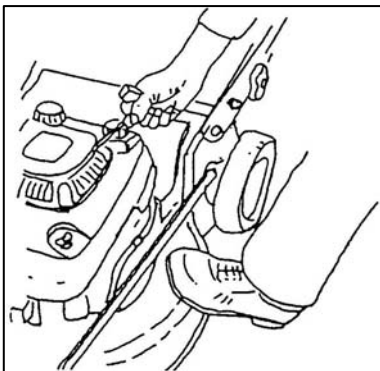


① 燃料コックを「開」位置にして下さい。



② スロットルレバーを『N』位置にして下さい。

参考；エンジンが暖まっている時は、『H I』の位置で始動できません。



③ ナイフカバーに片足をのせて、本体が動かないようにしっかり押え付け、リコイルグリップをゆっくり引いて、
圧縮を感じる位置から一旦戻した後、勢いよく引っ張って下さい。

▲ 注意

リコイルグリップを引く時に、後方に人や障害物がない事を確認して下さい。

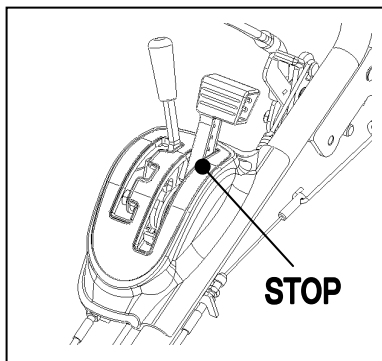
エンジンの始動後は、スタータノブは元の位置にゆっくりと戻して下さい。

④ エンジン始動後は、スロットルレバーを『L O』位置でしばらく（3 分程度）の暖機運転を行って下さい。暖機運転を行なうことにより、エンジンの各部にオイルを行き渡らせ、エンジンの寿命を延ばします。

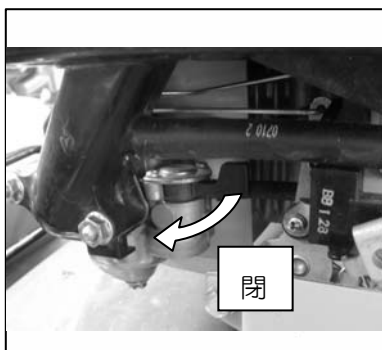
注意

- ・新製品購入後、最初の一週間(3～4時間)は、慣らし運転期間として、過負荷をかけない様に控えめな運転を心がけて下さい。
- ・チョークレバーを「全閉」N位置のまま使用すると、黒煙を吐いたり、エンジンの回転がスムーズで無くなったりしてエンジン各部に悪影響を与えますのでご注意ください。

■ エンジン停止のしかた



- ⑩スロットルレバーを「停止(S T O P)」位置にしてエンジンを停止して下さい。



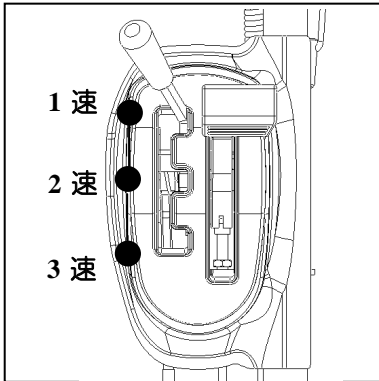
- ⑪最後に燃料コックを「閉(O F F)」位置にして下さい。

走行・旋回・変速・停止のしかた

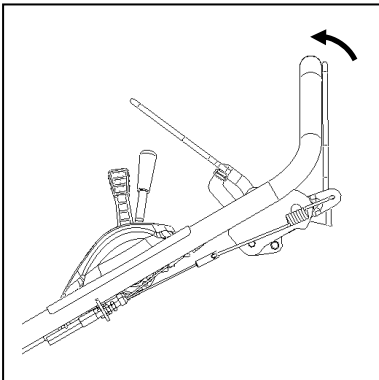
警告

- 所有者以外の人には使用させないで下さい。
- 走行するときは、周囲の安全を確かめてから発進して下さい。
- ・側溝や路肩の走行は本機の重みで地盤が崩れる恐れがあります。地盤が軟弱な場所での使用は十分に注意して下さい。
- ・10°以上の傾斜地では、転倒・滑落の危険があります。このような場所での使用はしないで下さい。

■ 走行のしかた



- ① エンジンを始動させて下さい。
〈10 頁エンジン始動のしかた参照〉
- ② 走行変速レバーを前進 1 速、2 速、3 速の中から所要の位置に確実に入れて下さい。



- ③ 走行レバーを前へ倒して、ハンドルと一緒に握ると走行を開始します。

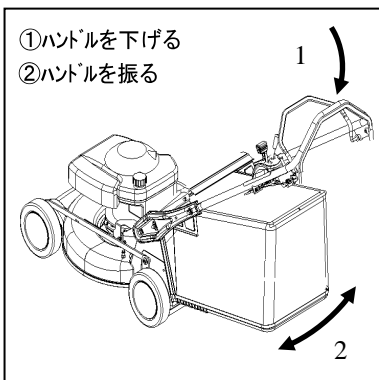
注意

走行レバーを半分握っていると、半クラッチ状態になりクラッチの磨耗が早くなりますので、ハンドルと一緒にすばやく握って下さい。

注意

- ・移動の際にはナイフレバーは「切」位置にして下さい。高速で回転するナイフに巻き込まれたり、異物を飛散させたりして危険です。

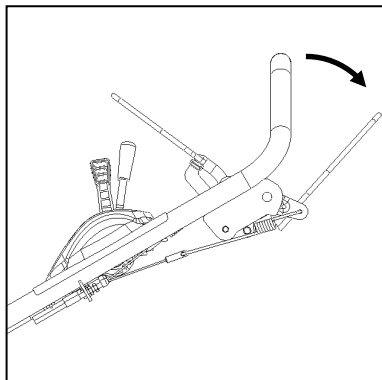
■ 旋回のしかた



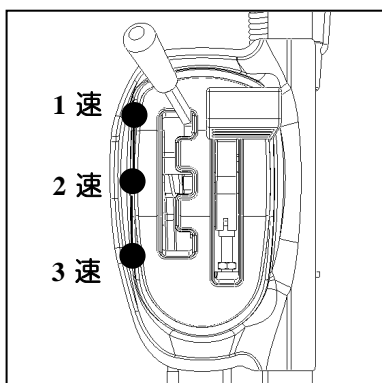
1. ハンドルを押し下げて前輪を浮かし、
2. 旋回方向へ振りながら行って下さい。

- ・ 旋回の際にはナイフレバーは「切」位置にして下さい。高速で回転するナイフに巻き込まれたり、異物を飛散させたりして危険です。

■ 変速のしかた



① 走行クラッチレバーから手を離し「切」位置にして下さい。



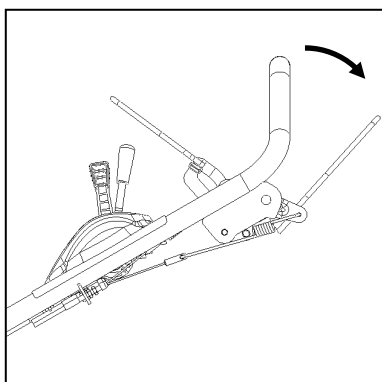
② 変速レバーを操作し、所要の変速位置に確実に変速して下さい。

③ 走行レバーを握り、再発進して下さい。

注意

速度を変更する時は、必ず走行レバーを『切』に戻し走行クラッチを切ってから、変速レバーを操作して下さい。

■ 停止（駐車）のしかた



① 走行クラッチレバーから手を離し、本機を停止させて下さい。

⚠ 注意

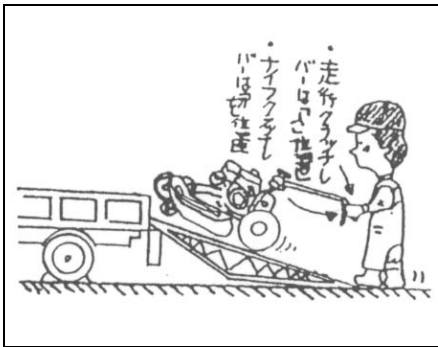
- ・ 本機は平坦で、周辺に障害となる物がない広い場所に駐車して下さい。
- ・ 本機を離れるときには、必ずエンジンを停止して下さい。

トラックへの積み降ろしのしかた

警告

- 運搬に使用する自動車は、荷台に天井のないトラックを使用して下さい。
- トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。
- トラックへの積み降ろしの際には、刈高さを一番高い位置にし、ナイフがブリッジと接触しないよう注意して下さい。
- ・ トラックはエンジンを止めてサイドブレーキを引き、確実に駐車をして下さい。
- ・ ブリッジのフックは荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けて下さい。
- ・ 積み降ろし時にブリッジ上でレバーの操作はしないで下さい。転落の危険があります。
- ・ 本機のタイヤがそれぞれブリッジの中央に位置するようにして下さい。
- ・ 本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。
- ・ トラックに積んで移動する時には、十分に強度のあるロープで本機を確実に固定し、更に荷台の上で動かないよう「車止め」を掛ければ安全です。

■ 積み降ろしのしかた



- ① 周囲に危険物のない、平坦な場所を選んで下さい。
- ② 基準にあったブリッジを使用して下さい。
- ③ スロットルレバーを「L O」位置に調整して下さい。
- ④ 積み込みは前進で、降ろす時は後から降ろして下さい。
安全のため、その他の位置には入れないで下さい。

注意

- ・ 本機を後から降ろす場合は、本機が勢いよく降りてこないように走行レバーを握り減速するか本機に力を加えながら、安全に注意しゆっくり降ろして下さい。

参考：ブリッジ基準

ブリッジは基準にあった、十分な強度のあるものを使用して下さい。

- 長さ…トラック荷台の高さの3.5倍以上あるもの。
- 幅…本機の車輪幅にあったもの。
- 強度…本機重量、及び作業者の体重の総和に十分絶え得るもの。
- スリップしないように表面処理が施してあるもの。

《上手な作業のしかた》

草刈作業のしかた

⚠ 警告

- 健康のため、継続して1時間以上製品を使用することは避けて下さい。必ず1時間毎に10分間程度の休憩時間を取るようして下さい。
- 使用可能な圃場は平坦地及び10°までの傾斜地です。いずれも凸凹の少ない整地された圃場で使用し、それ以外では使用しないで下さい。思わぬ事故の原因となります。
- 斜面での芝刈りは上下方向ではなく水平方向でおこなって下さい。
- 斜面上の方向変換は、十分注意を払って下さい。
- 標準で装着されているカバー・フラップ類は取り外さないで下さい。刈取部からの石等異物の飛散で、作業者をはじめ周囲に被害を及ぼす危険があります。
- 圃場内の障害物、側溝、軟弱な路肩のあるところ、地面の凸凹等危険な場所には目印を立てて誤って接近しないように注意して下さい。
- ナイフに絡み付いた草や針金その他の異物を取り除く際には、必ずエンジンを停止して下さい。
- 作業範囲以内に人(特に子供)が入り込まないように、草刈り作業中である旨の立て札やガードロープを張るなどし、半径10m以内にこれらのものを近付けないで下さい。
- 本機装着のカバー類は刈取部からの異物の飛散を最小限に抑える様設計されていますが、これを完全に防止するものではありません。安全の為、作業前の圃場内異物の除去は作業者の責任で確実に実施して下さい。

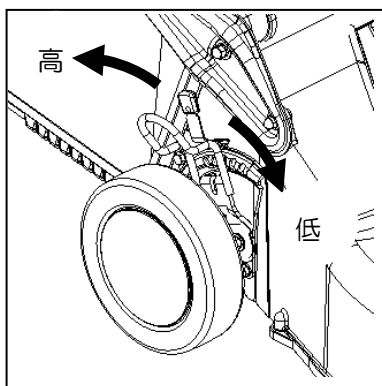
⚠ 注意

- ・作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、スパイク安全靴や帽子又はヘルメット、すね当て、防護メガネ(製品付属)等を常に着用して下さい。
- ・切り株、石、針金、空カン、棒切れ等の異物は作業前に出来る限り取り除いて下さい。

参考:

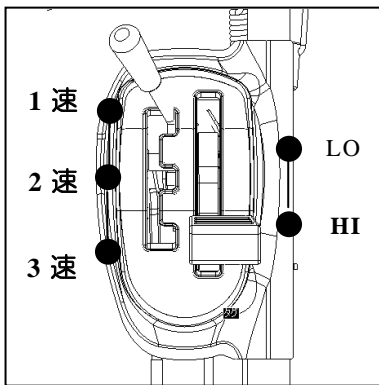
- 初めて本機を使用するときは石等の異物のない平坦地で操作方法等を十分に習得して下さい。刈取り跡が少し重複するようにして往復すると刈残しが無く、きれいに仕上がります。傾斜地での草刈は、平坦地で十分に練習した後にして下さい。

■ 草刈作業のしかた



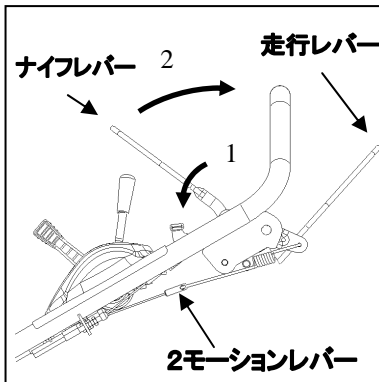
- ①作業状況に合わせて刈高調整レバーで刈高さを調整して下さい。
- ②エンジンを始動させて下さい。

〈10 頁エンジン始動のしかた参照〉



③スロットルレバーを『HI』に調整して下さい。

④変速レバーを操作し、所要の変速位置に確実に変速して下さい



⑤ 1. 2モーションレバーを前に倒す

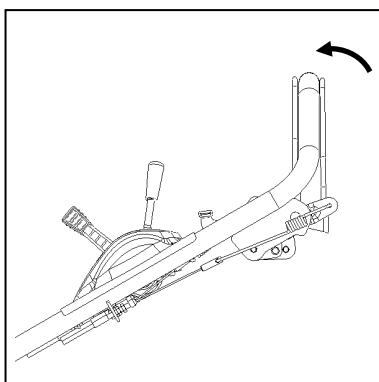
2. ナイフレバーを後に倒す

この手順でハンドルと一緒に握るとナイフが回りだします。

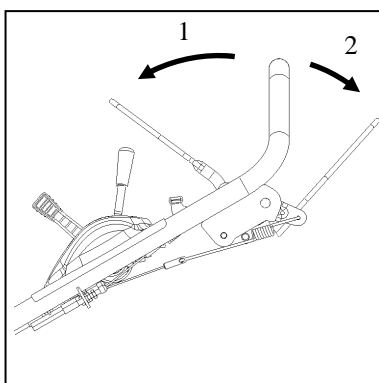
〈8 頁各部のはたらき参照〉

注意

ナイフレバーを半分握っていると、半クラッチ状態になりクラッチの磨耗が早くなります。ハンドルと一緒にすばやく握って下さい。



⑥走行レバーを前に倒すと本機が動き出し、刈取作業を行います。



⑦本機を終了する場合には、ナイフレバー、走行レバーの順に手を離して本機を停止させて下さい。

⑧エンジンを停止して下さい。

〈11 頁エンジン停止のしかた参照〉

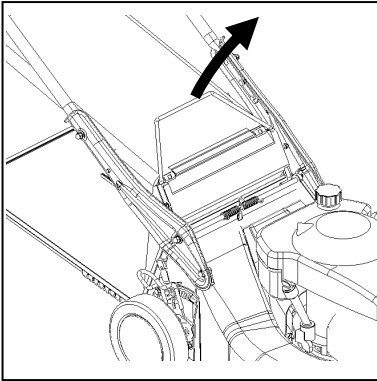
注意

- ①作業中、エンジンに負荷がかかり頻繁にエンストしそうな場合には、まずナイフレバーから手を外して下さい。次に作業速度を遅く変更し作業を再開して下さい。
- ②それでもエンジンの回転が上昇しない場合には、ナイフに草が絡まっている又は草の量が多過ぎる可能性があります。必ずエンジンを停止した後ナイフに絡まった草屑をきれいに取り除き、刈高さを一段高くして下さい。
- ③①の状態のまま無理に作業を続けると、本機のBBCクラッチが焼け、故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故の原因となります。

警告

- ・運転中はナイフカバー内側一杯までナイフが来ますので、絶対に草等を足等でナイフカバー内に蹴り入れないで下さい。大けがの原因になります。
- ・エンジンリコイル周辺部に堆積した草屑等は常に清掃して下さい。エンジン冷却不足によりエンジン焼付き又は火災の原因となり危険です。（※清掃は必ずエンジン停止後とする事。）

■ 収草バックの取付・取外し



①取付時は収草バックの取っ手部分を握り、収草バック上部のフックをロータリーデッキくぼみに引っ掛けて下さい。

②取外し時は取っ手部分を握り、収草バック後を上を持ち上げて収草バックのフックをくぼみから外して下さい。

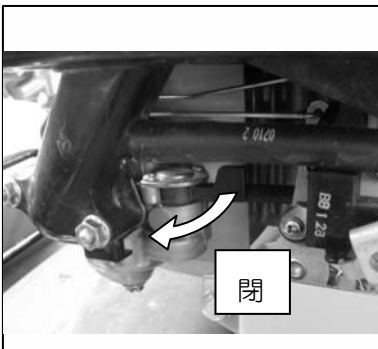
- ・収草バックは、取外しの都度きれいにして下さい。
- ・収草バックを取外したときは、必ず排出カバーを閉じて下さい。
- ・バック内の草を一杯になる前に捨てることで機械に負担をかけることなく作業ができます。

〈27頁<<仕様>>参照〉

警告

収草バックの取付け・取外しを行うときは、必ずエンジンを停止して下さい。
物が飛び出し、ケガをすることがあります

■ 作業終了後



- ・スロットルレバーを『STOP』にし、燃料コックを閉じて下さい。
- ・エンジン停止後 10 分以上時間をおいて下さい。
- ・各部分をよく清掃して下さい。

注意

ナイフカバー内の清掃のため、本機を傾けるときは、右側を下にするか、前側を上へ上げ、エンジンキャブレター側を上にして下さい。逆に傾けるとキャブレターの中にオイルが流入し再始動しなくなります。

- ・清掃後は、屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に、本機にカバーをかけて保管して下さい。（カバーは付属しません）

《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》

注意

- 当製品には、エンジンオイルが注油されておりません。（ミッションオイルは注油されていません）初めてご使用になる前には必ず各部に良質のオイルを指定の箇所に指定の量だけ確実に注油して下さい。
<注油量は下記◎給油を参照>
- ・定期的なオイルの交換は、本機を常に最良の状態で使用するために是非必要です。
- ・各部オイルの点検・交換をする場合には必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを暖機運転した後停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを（約10分以上）待ってから作業を行って下さい。

▲注意

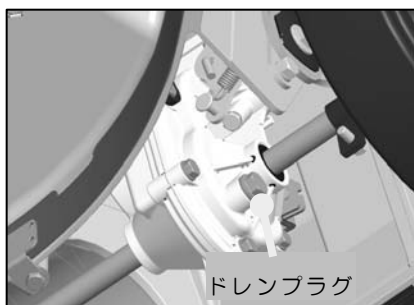
…エンジン停止後、すぐに作業を行うと…

- エンジン本体各部はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。
 - ・エンジン停止直後はエンジン各部、ミッション各部にオイルがまだ残っており、正確なオイル量が示されません。
 - ・安全のため、作業が終了するまで点火プラグキャップは点火プラグより外しておいて下さい。

■交換後の廃油はお住まいの地方公共団体の取り決めに従い、適切な処理をして下さい。■

ミッションオイルの排油と給油

※注油は少しずつ行って下さい。一度に注油しようとする、エアを噛んで注油口よりオイルが溢れ出す事があります。



◎ 排 油…

- ① オイルを受ける適当な容器を用意します。
- ② ミッションケース下側のドレンプラグ（排油、兼注油口）を外しオイルを抜き取ります。
- ③ ドレンプラグを確実に取付けて下さい。



◎ 給 油… 注油量を厳守下さい。

- ① 本機を右側（キャブレタ側を上）に倒します。
- ② ミッションケース下側ドレンプラグを外し、注油口（兼排油口）から0.07リットルのミッションオイル（#90）を注油して下さい。

参考；

- ・注油はオイル差し（オイルラー）で行うと正確に注油ができます。
- ・取り外したドレンプラグは元通りに締め付けておいて下さい。

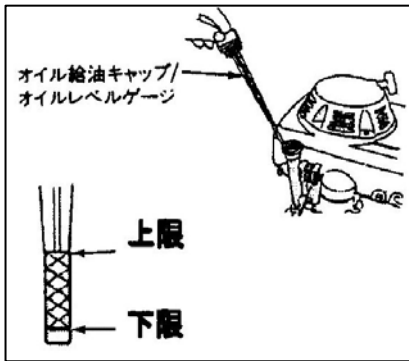
交換の目安

初回：10時間目、2回目以降：50時間毎

注意

- 高負荷又は高温下で連続長時間使用する場合には、上記目安より早めの交換（約半分の時間）でミッションオイルを交換して下さい。

エンジンオイルの点検・交換・注油



◎点検…

- 給油栓についているレベルゲージで、エンジンオイルの質・量を毎日、もしくは**8時間**使用毎に点検して下さい。レベルゲージはねじ込まずに点検します。
- 常にレベルゲージの上限までエンジンオイルは入れておいて下さい。



◎交換・注油…

- ① オイルを受け取る適当な容器を用意し、オイルフィラキャップを外した後、オールドレンボルトを工具を使って外して下さい。
- ② 抜き終わったら元の通りにオールドレンボルトをしっかりと締め付けて下さい。
- ③ エンジンオイルを規定量まで注油して下さい。
〈エンジンオイルの量は9頁参照〉
- ④ エンジンオイル注油後、オイルがにじみ出ないように、オイルフィラキャップをしっかりと締め付けて下さい。

注意

- 但し、負荷条件の厳しい作業条件や高温環境で連続長時間使用される場合は、上記時間に達する前、早めの交換(約半分の時間)をおすすめします。

交換の目安

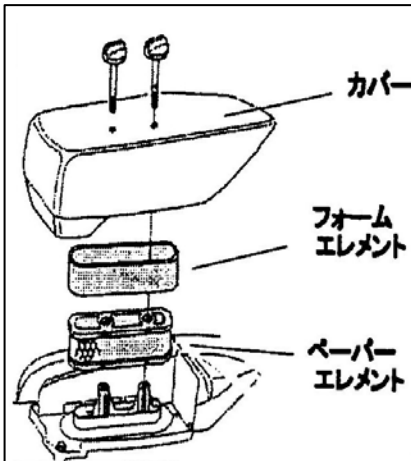
初回：5時間目、2回目以降：25時間毎

《各部の点検・整備・調整のしかた》

エアクリーナの清掃のしかた

警告

- エアクリーナ・リコイルスタータが草屑等で目詰まりを起こしたまま作業を続けると、出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより燃料への引火火災の原因ともなり大変危険です。必ず定期的に点検し清掃して下さい。
…エアクリーナを外したままエンジンを始動させないで下さい。
ゴミやほこりをエンジン内部へ吸い込み、エンジン不調や異常摩耗の原因となります。



- ①蝶ボルトを外してカバーを取外し、ホコリやゴミを気化器側へ入れないように注意深くエレメントを取り出して下さい。
- ②フォームエレメントは、中性洗剤で洗浄後よく絞り乾燥させて下さい。
- ③ペーパーエレメントは軽く叩くか、内部からエア吹きしてホコリやゴミを落として下さい。（外側からエア吹きすると目詰まりの原因となります）
- ④ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元の通りに組み付けて下さい。

注意

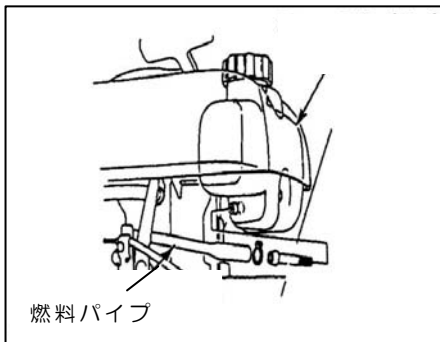
- ・ペーパーエレメントの汚れがひどい場合は新品に交換して下さい。
- ・ペーパーエレメントを叩く時にはろ紙を傷つけないように注意して下さい。
- ・ろ紙をブラシ等でこすらないで下さい。

…エアクリーナの清掃、交換時期について…

	清掃	交換
フォームエレメント	… 25 時間毎	
ペーパーエレメント	… 50 時間毎	200 時間毎

☆チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けて下さい。

燃料パイプの点検のしかた



危険

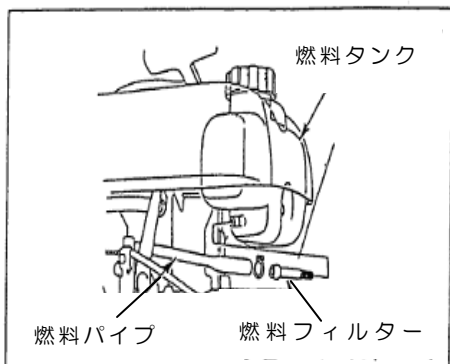
くわえタバコや裸火照明での作業禁止

- ・燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。締め付けバンドと共に3年毎、または傷んだ時には新品と交換して下さい。
- ・パイプ類や締め付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。

注意

- ・パイプ類の交換時に、パイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

燃料フィルタ清掃のしかた



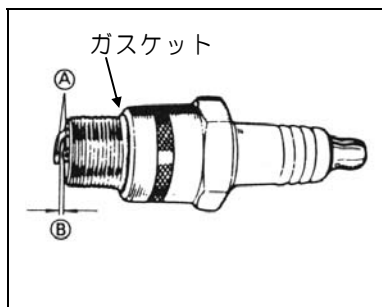
⚠ 危険

くわえタバコや裸火照明での作業禁止

- 50 時間使用ごとに燃料フィルターを清掃して下さい。
- 作業は、ホコリやチリのない清潔な場所で行って下さい。
- ガソリンやシンナー等の引火性の強い洗浄油は、危険ですから使用しないで下さい。

- ① 燃料タンクの中のガソリンを全て抜いて下さい。
- ② 燃料タンク側のホースクランプ及び燃料パイプを外して下さい。
- ③ 燃料タンク出口に挿入されている燃料フィルターを取り出して下さい。
- ④ 燃料タンク内及び燃料フィルターに付着しているゴミを清掃して下さい。
- ⑤ 元の通りに確実に組みつけて下さい。

点火プラグの点検・調整のしかた



- ① 50 使用時間毎にプラグレンチで点火プラグを外し、電極部分 A にカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取って下さい。
- ② 中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。
- ③ 点火プラグの電極隙間 B を 0.6 ~ 0.7 mm に調整して下さい。

参考：

締め付け時は、初め手で軽くねじ込んでから(ガスケットが座面に当たるまで)プラグレンチを使用して下さい。

初めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。

＜点火プラグ基準…27 頁《仕様》参照＞

⚠ 警告

点火プラグの発火テストは、シリンダーのプラグ穴付近では行わないで下さい。
混合気に引火し、火傷を負う可能性があります。

《その他の点検》

- ① 50 使用時間毎に、マフラ管内、シリンダ排気孔、ピストン頂部、燃焼室内に堆積したカーボンを除去して下さい。

参考：

この作業は、エンジン整備の技術及び道具を要します。製品お買い上げの販売店までご相談下さい。(有料)

- ② 各操作レバーが正しく作動するか確かめて下さい。(毎回始業時)

- ③ ワイヤは初期伸びしますので、初回使用時は 3～4 時間運転後に再調整して下さい。

〈22 頁…各種ワイヤ調整のしかた参照〉

- ④ 本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べて下さい。

- ⑤ 各部を十分に馴染ませる為、最初の 2～3 時間は無理な作業はさけて下さい。

- ⑥ 作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行ってください。

〈29 頁…定期自主点検表参照〉

- ⑦ 各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認して下さい。

- ⑧ 本機全体を見回し、各部にオイルの漏れがないか点検して下さい。

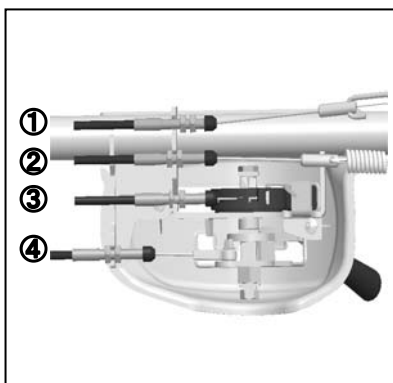
● もしオイル漏れを確認した場合には、お買い上げの販売店へご相談下さい。

● オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりでなく、本機の破損にもつながります。

各部ワイヤ調整のしかた

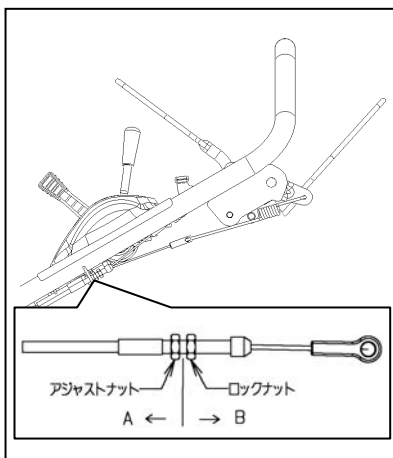
▲ 注意

- ・ 各ワイヤ・ベルトを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所に置き、エンジンを停止した後に行ってください。
- ・ 本機の点検・整備時には、不意な始動を避ける為エンジンの点火プラグからプラグキャップを抜いておいて下さい。



■ ワイヤの組付け位置

- ① 走行ワイヤ
- ② ナイフクラッチワイヤ
- ③ スロットルワイヤ
- ④ 変速ワイヤ



■ 走行クラッチワイヤ

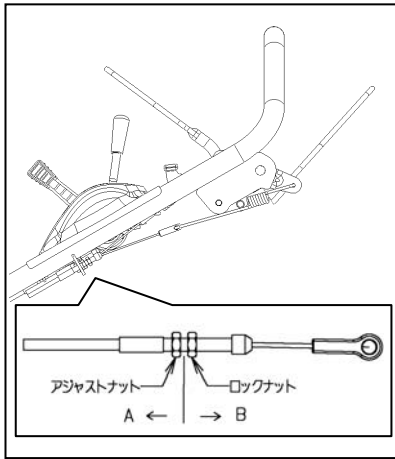
左図を参考に走行クラッチワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

□ 走行レバーを入れても負荷がかかるとクラッチが抜け本機が停止する場合。

…アジャストナットをⓐの方向へ…

□ 走行レバーを切ってもクラッチが抜けずに本機が停止しない場合。

…アジャストナットをⓑの方向へ…



■ ナイフクラッチワイヤ

□ ナイフレバーを入れてもナイフが回らない場合。

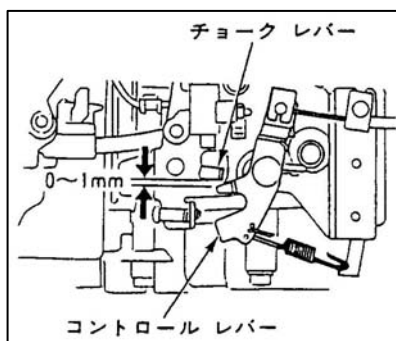
…アジャストナットをⓐの方向へ…

□ ナイフレバーを切ってもナイフが止まらない、若しくは時間がかかる場合。

…アジャストナットをⓑの方向へ…

注意

半クラッチ,半ブレーキにならないようにして下さい。



■ スロットルワイヤ

① スロットルレバーを『H I』に合わせ、エンジンのコントロールレバーがチョークレバーに接する手前の位置になるようにハンドル側に付いているアジャストネジを調整し、ロックナットを確実に締め付けて下さい。

② エンジンを始動し、スロットルレバーを操作して、チョーク・H I・L O・停止でエンジンが正しく作動する事を確認して下さい。

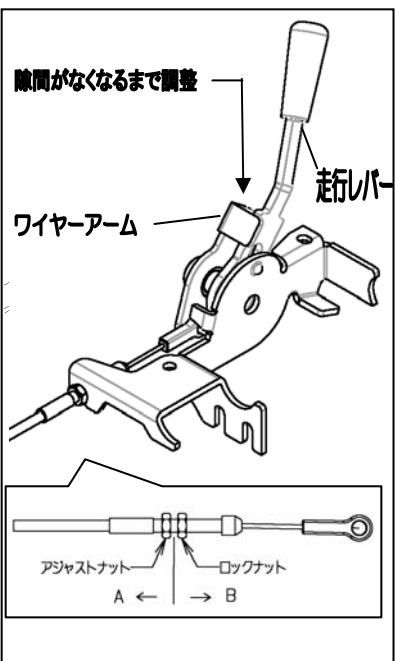
■ 変速ワイヤ

① 変速レバーを1速に入れて下さい。

② 走行レバーを握りギヤが確実に1速位置にあることを確認して下さい。

③ 変速レバーとワイヤーアームの曲がり部分の隙間がなくなるまでアジャストネジをB方向へ張って下さい。

④ エンジンを始動し、変速レバーを操作して、1速、2速、3速それぞれで走行する事を確認して下さい。



注意

変速レバーは、走行中に操作しないで下さい。

□ 変速レバーを3速に入れて、走行レバーを握っても本機が走行しない場合。

…アジャストナットをⓐの方向へ…

□ 変速レバーを1速に入れて、走行レバーを握っても本機が走行しない場合。

…アジャストナットをⓑの方向へ…

《ナイフの点検・交換のしかた》

ナイフの点検・交換

■作業を安全に行うため、ナイフの作業前点検を行って下さい。■

注意

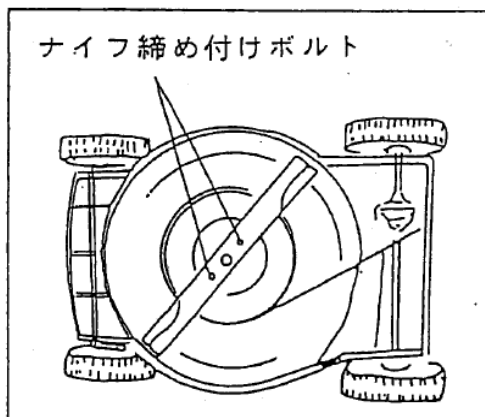
- ・本機を傾ける時は、ハンドル側よりみて右側を下にするか、前側を上へ上げ、エンジン・キャブレター側を必ず上にして下さい。逆に傾けると、キャブレターの中にオイルが流入し、始動しなくなります。また、ガソリンがこぼれ危険です。

警告

- ・本機には鋭利なナイフが使用されています。点検・交換時のナイフ脱着の際には丈夫な手袋をつけるか、又は布切れでナイフの先端を包んで行って下さい。絶対に素手で直接ナイフに触らないで下さい。ケガをする恐れがあります。
- ・ナイフを交換する際には必ずメーカー純正品をご指定下さい。社外ナイフの使用は危険であるばかりでなく、使用による故障・事故についても保証の対象外となります。
- ・前回の作業時に縁石や木の根等にナイフが当たり、ナイフの曲がりや欠損が生じていないか、又、ナイフが摩耗していないか作業を始める前に点検して下さい。
- ・ナイフの摩耗、割れ、曲がり、欠損等を放置したまま作業を続けると、作業中にナイフが折損して飛び出し、作業者や付近にいる人に当たったりして重大な人身事故を招く原因となったり、振動により本機破損の原因となる場合があります。

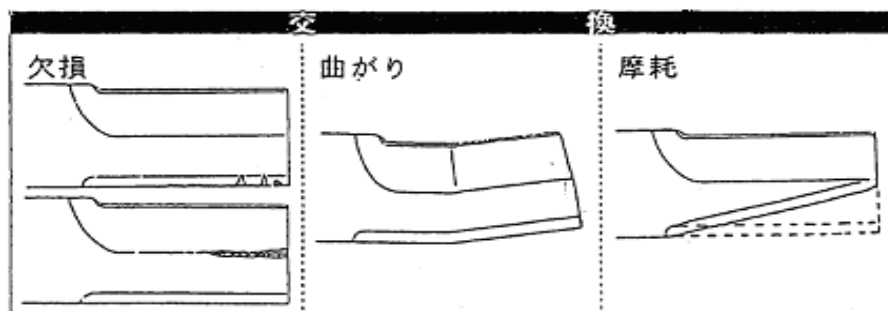
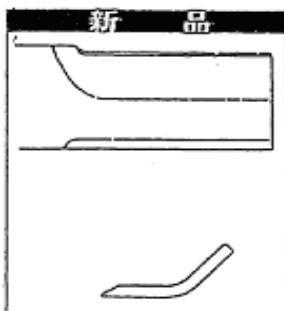
注意

- ・ナイフの交換・修正等の作業は適切な工具と整備技術をお持ちの方が実施して下さい。
- ・ナイフ締め付けボルトも消耗します。ナイフを交換する際には必ずナイフ締め付けボルトも同時に交換するようにし、決して他のボルトで代用しないで下さい。
- ・作業をする時は手を滑らしてケガをしないように十分注意して下さい。



- ① エンジンを停止し、念のため点火プラグのキャップを外して下さい。
 - ② 本機をハンドル側から見て右側を下に倒すか、前側を上へ上げて下さい。
 - ③ ナイフの締め付けボルトが緩んでいないか点検して下さい。
 - ④ ナイフの割れ、曲り、磨耗を点検して下さい。
 - ⑤ 下図の様に異常な状態になっていたら交換して下さい
- ★交換の際には元のとおりしっかりとナイフ締め付けボルトを締め付けて下さい。

<ナイフは二本のボルトで取り付けられています>

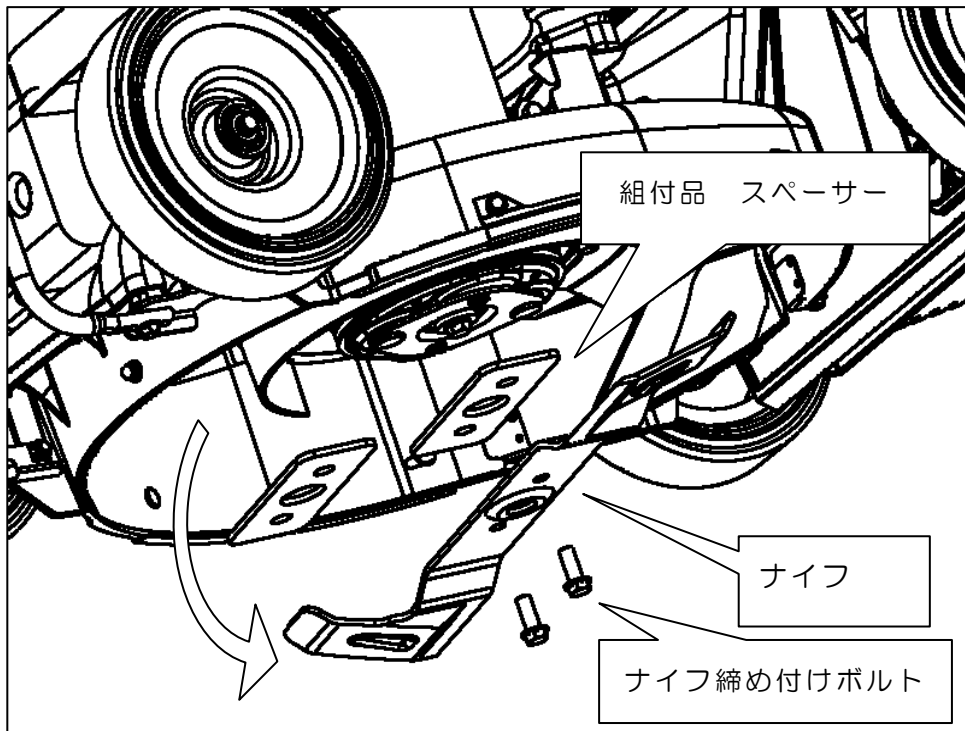


参考：

- ・乾燥した土や砂を含んだ場所での使用はナイフの磨耗が早いため頻繁に点検して下さい。
- ・予め予備のナイフをお買い求め頂き、手元において置かれることをお奨めいたします。

ナイフの取付け方

- ナイフは、本機の上面对して常に右回りに回転します。
- 両ボルト共に右ネジが使用されています。ナイフボルト脱着の際には注意して下さい。
- 下図を参考にスペーサーがBBCのカラーにはまる位置でセットし、ナイフと共に2本のナイフ締め付けボルトで締め付けて下さい。スペーサーがきちんとはまっていないとナイフの折損、欠け、振動等の原因となります。
- ナイフセット後は各ボルト・ナットを元の通りに確実に締め付けておいて下さい。



参考：スペーサー装着による刈高さ調整

通常よりも低く刈りたい場合は上図のようにスペーサー（同梱品）を装着してご使用下さい。ナイフ締め付けボルトをはずして、図のように組付済スペーサーとナイフの間に同梱品スペーサーをはさみこんで取り付けて下さい。

※刈高さが低くなりますので、未着用時に比べて刈取性能が落ちる場合があります。発生現象を30ページ'自己診断表'に従い適切な処置をして下さい。

▲ 注意

ナイフの位置が低くなりますので、スペーサー未着用時より石等の飛散物が増える可能性があります。使用時には未着用時以上に安全には十分注意して下さい。

参考：刈高さ 通常 14～50mm スペーサー着用時 10～46mm

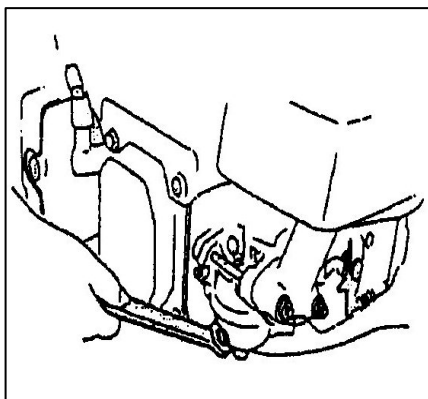
《長期保管のしかた》



警告

■エンジンを停止して下さい。〈11 頁…エンジン停止のしかた参照〉

- 燃料を抜く時は風通しの良い場所で、くわえタバコや裸火照明等の火気には十分注意し、抜いた燃料の取扱には十分に注意して下さい。
- 本機は、固い平坦な場所で水平にして保管して下さい。
- 燃料タンク内のガソリンを抜く時、又は本機にカバーをかける時にはエンジンとマフラが十分に冷えている（エンジン停止後 10 分以上）のを確認してからにして下さい。



①本機を30日以上使用しないときは、燃料変質による始動不良、又は運転不調にならないように燃料ドレンボルトを緩め気化器内燃料を排出すると共に、燃料コックより燃料タンク内の燃料を抜き、湿気のない場所を選んで保管して下さい。

- 燃料タンク内の燃料は、燃料フィルタポットを外し、受け皿等を当ててから燃料コックを「開(ON)」位置にして抜き取って下さい。

②エンジン及び本機の外面をオイルの染みた布で清掃して下さい。

③エンジンオイルを交換して下さい。

〈19 頁…エンジンオイル交換参照〉

④各部の清掃を十分に行って下さい。特にリコイルスタータ・エアクリーナ・マフラ・気化器付近やベルトカバー内に堆積した泥やホコリをエア吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいて下さい。

…草やホコリが堆積したまま作業を続けると…

草屑等による目詰まりでエンジンが過熱し、焼き付や火災の原因にもなりかねません。

参考:

- ナイフカバー内に付着した泥や草屑はこれが乾かない内にホース等で加圧した水で清掃を行うと比較的に洗い落とすことができます。…このとき、エンジンの電装関係や気化器エアクリーナー、マフラ排気口に水がかからないようにカバーをかける等して注意して下さい。エンジン始動不良の原因になります。

⑤屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管して下さい。

⑥本機にカバー等をかけて、ほこりがつかないようにして下さい。（*本機にカバーは付属していません。）

《機械を他人に貸すときは…》



所有者以外の人には使用させないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導して下さい。

機械と一緒に「取扱説明書」も貸して上げて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

《仕 様》 (参考数値)

名 称	ローンモアー	
型 式	GR538	
全長×全幅×前高(mm)	1,605×564×1,050	
刈 幅(mm)	530	
刈 高(mm)	14～50 (スパーサー着用時 10～46)	
ナイフ	バーナイフ (ウイング付)	
重量 (kg)	50	
バック容量(ℓ)	80	
走行クラッチ方式	デッドマン式噛み合いクラッチ	
作業クラッチ方式	デッドマン式ブレーキ付単板クラッチ (2 モーション)	
速度 (Km/h)	①2.5 ②3.0 ③3.6	
ミッションオイル(ℓ)	0.07 (#90)	
	型 式	GXV160
	排気量(cc)	163
	始動方式	リコイルスタータ
	点火プラグ	W16EP-U, W16EPR-U (ND) / BPR5ES, BP5S
	タンク容量(ℓ)	2.0
	オイル容量(ℓ)	0.65

※本仕様は改良のため予告なく変更する事があります。

《工具袋・同梱品明細》

No.	部 品 名	規格・寸法	個数	備 考
1.	取扱説明書		1	
2.	品質保証書		1	
3.	プラグレンチ	21mm	1	
4.	プラグレンチバー	6×120	1	
5.	ブレードスペーサー		1	
6.	六角ボルト	M8×25 (8T)	2	
7.	角根頭ボルト	M8×35	2	
8.	六角袋ナット	M8	6	
9.	バネ座金	8	6	
10.	平座金8	8	6	
11.	両口スパナ	10×12	1	
12.	ゴーグル	防曇タイプ	1	保護具

《消耗品明細》

No.	部 品 名	部 品 番 号	個数/台	備 考
1.	ウイングナイフ 530	0268-72100	1	
2.	ナイフ取付けボルト	89-1254-100252	2	座付きボルト M10×1.25×25
3.	ナイフクラッチワイヤ	0268-71100	1	
4.	走行クラッチワイヤ	0268-71200	1	
5.	スロットルワイヤ (H)	0268-71400	1	
6.	変速ワイヤ	0268-71300	1	
7.	収草バック [DWO] 80	0278-77400	1	
8.				
9.	GR ラベル A	0279-70600	1	事故防止…
10.	GR ラベル B	0279-70700	2	作業環境により…
11.	GR ラベル C	0279-70800	1	このカバーなし…
12.	注意ラベル (小)	80-1020-928-00	1	プラグキャップ…
13.	操作ラベル	0270-70500	1	握って入…
14.				
15.				
16.				
17.				
18.				
19.				

《定期自主点検表》

- ★点検や整備を怠ると事故や故障の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。
- ★年次点検は1年に1回、月次点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

項目	点検内容	点検実施時期				
		始業	月次	年次		
原動機	①かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか。	○	○	○	
	②回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。	○	○	○	
	③排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○	○	
	④エアクリーナの損傷、弛み、汚れ	損傷なく、取付部に弛み、著しい汚れはないか。		○	○	
	⑤シリンダヘッドと各マニホールド締付部の弛み	ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。 *（正常締付トルクで弛みはないか）			○	
	*⑥弁隙間	（正規の隙間であるか）			○	
	*⑦圧縮圧力	（正規の圧縮圧力であるか）			○	
	⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み。	エンジンベースに亀裂、変形はないか。 ボルト・ナットに弛みはないか。	○	○	○	
潤滑装置	①油量、汚れ。	オイルの量は適切か、オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか。	○	○	○	
	②油漏れ。	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。	○	○	○	
燃料装置	①燃料漏れ。	燃料の漏れはないか。	○	○	○	
	②燃料フィルタの詰まり。	著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。		○	○	
	③燃料の量・質。	燃料が入っているか、又質は良いか。	○	○	○	
電気装置	電気配線の接続部の弛み、損傷。	ハーネス接続は適切か、又弛み、損傷はないか。		○	○	
清浄装置	①エアクリーナエレメントの汚れ	エアクリーナエレメントに汚れはないか。	○	○	○	
	②エレメントの破損。	エレメントに破れ、スリ切れはないか。	○	○	○	
冷却系統	①リコイルカバーへの草屑等の目詰まり。	リコイルカバーが草屑等で目詰まりしていないか。	○	○	○	
	②マフラーへの草屑等の堆積。	マフラー周辺に草屑が堆積していないか。	○	○	○	
伝達装置	ユニバーサルジョイント	①異音。以上発熱及び作動	作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか。	○	○	○
		②損傷、汚れ。	亀裂、損傷、著しい汚れはないか。		○	○
	ミッショ	①異音、異常発熱及び作動。	作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか。		○	○
		②油量、汚れ。	オイルの量は適切か、又、著しい汚れはないか。			○
③油漏れ。	オイルシール、パッキン部に油漏れはないか。	○	○	○		
車体	車体	亀裂、変形及び取付ボルト・ナットの弛み、脱落。	フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。		○	○
	カバー	亀裂、変形、腐食。	亀裂、変形、腐食はないか。			○
	レバー、ワイヤ	レバー、ワイヤの損傷、弛み、ガタ、割ピンの欠損。	作動及び取付状態、著しい損傷及び弛み、ガタ、脱落はないか。	○	○	○
走行装置	タイヤ(ホイール)	①空気圧及び溝の深さ。	基準値内であること。	○	○	○
		②亀裂、損傷及び偏摩耗。	亀裂、損傷及び偏摩耗はないか。	○	○	○
		③金属片、石その他の異物の噛み込み。	異物の噛み込みはないか。	○	○	○
		④ボルト・ナットの弛み、脱落。	ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。	○	○	○
		⑤ガタ、異音。	取付部に異音、ガタはないか。		○	○
	表示マーク	損傷。	警告ラベル及び銘板が損傷なく取り付けられているか。		○	○

※ *印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

《自己診断表》

もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参照して適切な処置をして下さい。

現象	原因	処置
刈草がうまく放出しない。	草が湿っている。	草が乾燥してから作業する。
	草が長い。	刈高さを高くして、二回刈する。
	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
	エンジン回転数が低い。	最高回転数にする。
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
刈残しが出る。	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	エンジン回転数が低い。	最高回転にする。
	ナイフの摩耗、破損。	新しいナイフと交換する。
	ナイフカバー内への草屑の堆積。	ナイフカバー内面を清掃する。
	草が長い。	二回刈りをする。
土削りを発生する。	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
	地形にうねりがある。	草刈りパターン(刈取方向)を変える。
	地形に起伏(凸凹)が多い。	刈高さを高くする。
	ナイフの曲がり。	新しいナイフと交換する。
ナイフがスリップする。	ナイフクラッチワイヤーが伸びている。	ナイフクラッチワイヤーを調整する。
	ナイフカバー内に異物が詰まっている。	ナイフカバー内を清掃する。
	BBCクラッチが磨耗している。	BBCを交換する。
変速しない。	変速の位置がずれている。	変速ワイヤーの調整
	ミッションの不具合。	ミッションの修理
振動が大きい。	ナイフのバランスが悪い。	新しいナイフと交換する。
	ナイフの損傷、磨耗。	新しいナイフと交換する。
	BBCのベアリングが破損している。	BBCを交換する。
	エンジンPTO軸が曲がっている。	エンジンPTO軸を交換する。
刈り取り作業負荷が大きい。	エンジン回転が低い。	エンジン回転を上げる。(回転数チェック)
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	ナイフに草が堆積、又は巻きついている。	エンジンを停止して刈取部を清掃する。
	草が長い。	刈高さを高くして、二回刈りをする。
	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
車輪がスリップする。	ナイフ及びナイフカバー内への異物の堆積。	ナイフ及びナイフカバー内を清掃する。
	圃場が軟弱である。	圃場が乾くまで作業を中断する。
	刈高さが低い。	刈高を高くして二回刈りをする。
異物が飛散する	圃場への異物の混入。	刈高さを上げるか、予め異物を除去する。
走行しない。	ラチェットが左右反対に付いている。	ラチェットを正常に取り付ける。
	変速の位置がずれている。	変速ワイヤーの調整。
ナイフの回転が停止しない。	BBCがきいていない。	ナイフクラッチワイヤーの調整。
ナイフ停止後、再始動するとエンジン回転が上昇しない。	ナイフもしくはナイフ軸に刈草等が巻きついている。	ナイフもしくはナイフ軸に巻きついた草屑を取り除く。

※ わからない場合には、お買い上げいただいた販売店にご相談下さい。

《エンジンの不調とその処理方法》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をして下さい。

現象	原因	処置
始動困難な場合 (始動しない場合)	スロットルレバーが「始動」の位置でない。	スロットルレバーを「始動」の位置にする。
	チョークを引いていない。	エンジン冷却時、スロットルレバーを N 位置にする。
	燃料が流れない。	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除去する。 燃料コックのストレーナを取り外し、カップ内の沈殿物を除去するとともに付着しているゴミを取り除く。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	異物を取り除き、締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換する。
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジンの回転が重い。	気温によってオイルを使い分けする。
	点火コイル、又はユニットの不良。	*点火コイル、又はユニットを交換する。
	点火プラグの不調。	点火プラグの電極の隙間を点検し、調整する。 新しい点火プラグと交換する。
出力不足の場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	エアクリーナの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	チョークが完全に開いていない。	スロットルレバーを『HI』に戻す。
	冷却系統が目詰まりをしている。	リコイルスタータ周辺を清掃する。
突然停止した場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	燃料コックが閉じている。	燃料コックを開く。
排気色が異常に黒い場合	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
マフラから黒煙が出て出力が低下した場合	エアクリーナエレメントの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	チョークが完全に開いていない。	スロットルレバーを『HI』に戻す。
マフラから青白煙が出た場合	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
	シリンダ・ピストンリングの摩耗。	*リングを交換する。
エンジン回転が安定しない(上昇しない)	チョークが完全に開いていない。	スロットルレバーを『HI』に戻す。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
しばらくするとエンストする。	点火コイルの不良。	*点火コイルを交換する。
	燃料フィルタの目詰まり。	燃料フィルタを清掃する。
排気に刺激臭がある。	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。

※ *印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

※わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。



株式会社
オーレック

本 社	〒834-0195	福岡県八女郡広川町日吉548-22	TEL. 0943-32-5002(代) FAX. 0943-32-5009
仙台営業所	〒983-0821	宮城県仙台市宮城野区岩切 2-1-15	TEL. 022-255-3009(代) FAX. 022-255-3039
長野サービス センター	〒387-0012	長野県千曲市桜堂字西沖335-1	TEL. 026-273-5686(代) FAX. 026-273-5687
関東営業所	〒337-0051	埼玉県久喜市菖蒲町菖蒲2800	TEL. 0480-87-3008(代) FAX. 0480-87-3009
名古屋営業所	〒491-0871	愛知県一宮市浅野字馬東41-1	TEL. 0586-77-7002(代) FAX. 0586-77-7003
岡山営業所	〒700-0951	岡山県岡山市田中123-104	TEL. 086-245-2568(代) FAX. 086-245-2569
福岡営業所	〒834-0195	福岡県八女郡広川町日吉548-22	TEL. 0943-32-4778(代) FAX. 0943-32-3518
鹿児島営業所	〒899-6404	鹿児島県霧島市溝辺町麓843-6	TEL. 0995-58-3991(代) FAX. 0995-58-2491